

2022 年度国際学会・シンポジウム 開催 助成 実施報告書

農学部専任准教授 河野 菜摘子

シンポジウム名 第8回生殖若手の会
開催日時 2022年9月10日～11日
開催場所 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 308F
主催 明治大学
共催 筑波大学、群馬大学、摂南大学、静岡大学
後援 明治大学国際連携本部
招待講演者 Takuya Nishigaki (Institute of Biotechnology UNAM)
Radosław Kajetan Kowalski (Polish Academy of Sciences in Olsztyn)
特別講演者 東山 哲也 (東京大学大学院理学系研究科)
松本 緑 (慶應義塾大学理工学部)
一般講演者 笠原 賢洋 (立命館大学生命科学部)
末次 憲之 (東京大学総合文化研究科)
角井 宏行 (京都大学農学部)
竹田 典代 (広島大学総合科学部)
加藤 泰彦 (大阪大学大学院工学研究科)
大森 俊宏 (東北大学大学院工学研究科)
徳岡 雄大 (慶應義塾大学理工学部)
日野 敏昭 (旭川医科大学医学部)
木村 敦 (北海道大学)
伊藤 潤哉 (麻布大学獣医学部)
木村 一貴 (東北大学 東北アジア研究センター)
安部 淳 (神奈川大学・明治学院大学)
武内 秀憲 (名古屋大学)
西尾 俊亮 (福島大学食農学類附属発酵醸造研究所)
吉田 純生 (名古屋大学生命農学研究科)
杉浦 健太 (群馬大学)
川田 由以 (麻布大学大学院獣医学研究科)
畑 明広 (麻布大学動物繁殖研究室)
松本 悠 (明治大学農学研究科)
山本 千愛 (立命館大学生命科学部)
中村 さくら (麻布大学大学院獣医学部)

諸星 和紀（明治大学生体制御学研究室）

山本 真穂（明治大学農学研究科生命科学専攻）

古川 真央（琉球大学理工学研究科）

森田 瑞生（近畿大学大学院生物理工学研究科）

参加者 合計 74 名（対面：53 名、Web：21 名、明治所属：10 名）

開催趣旨

- ・お互い顔の見える関係になる。
- ・生物種や専門を越えて、生殖について広く深くディスカッションする。
- ・普段の学会ではできないようなお題でじっくりと考えるような機会を得る。
- ・参加者全員が生殖に対する知的好奇心を改めて刺激するような会である。

実施報告

本研究会は 2022 年 9 月 10 日から 11 日の 2 日間、明治大学アカデミーコモンの教室にて実施された。参加者は対面とオンラインをあわせると 74 名の参加となり、たいへん盛況な会となった。本企画では、生殖に関連する研究者を一堂に集め、研究対象とする生物種や研究者の所属学部などの枠組みにとらわれず横断的に議論する会を実施することができた。今回の講演者を研究対象の生物で分類すると、植物：8 名（シロイヌナズナ：3 名、ゼニゴケ：5 名）、動物：18 名（マウス：9 名、クラゲ：1 名、ミジンコ：1 名、カタツムリ：1 名、ハチ：1 名、魚類：3 名、クマムシ：1 名、サンゴ：1 名）、シュミレーション：1 名、と多岐にわたる。参加者が取り扱う対象生物はそれぞれであるが、お互いの研究内容について熱い議論が交わされ、会場からは熱心な質問が途切れることはなかった。開催後のアンケートでも、94.3%の参加者が「収穫ある会であった」と答えていることから、参加者の満足度が非常に高いことが伺える。議論が白熱し、当初予定していた発表時間を大幅に過ぎてしまった点が反省点である。今後は、質疑応答に時間を割いた余裕のあるスケジュールが必要であると感じた。

また、コロナ禍のためオンラインと対面とのハイブリッド開催にしたが、メキシコ、ポーランド、イギリスからの演者や参加者が渡航することなく参加できた点は、ハイブリッド形式のメリットを最大活用できたと考える。今後、新型コロナウイルスの流行が終息してもこの形式を続けていく必要があると感じた。

この会は、講演者はもちろんのこと聴講者全員が自己紹介を行う時間を設け、さらには座長をくびじき制にしたことで、全員が自ら参加しているという意識を持ってもらうことに成功したと言える。是非、今後ともこのスタイルを継続して開催していくべきであり、明治大学としても継続して後援していくべき会であると言える。